

● 学会発表の内容

体外受精実施者へのインフォームドコンセント用資料作成 ～年齢によって成功率（出生率）はどのくらい変わるのか？～

医療法人社団 徐クリニックARTセンター
中塚愛 清須知栄子 伊藤真理 峰千尋 徐東舜

■【目的】

体外受精を実施する際に、インフォームドコンセントの資料として体外受精成績（出生率）を患者に伝える必要がある。そこで体外受精成績の説明資料として、当院での年齢別での採卵回数ごとの出生率を調べ、その累積妊娠率のグラフを作成したので報告する。

■【対象】

2010～2013年の体外受精初回実施者775症例のうち、タイミング及びAIHにて出生した20症例を除いた755症例を対象とし、年齢別に7群に分類した。分布は、～29歳：67症例（8.9%）、30～34歳：218症例（28.9%）、35～37歳：189症例（25.0%）、38～39歳：117症例（15.5%）、40歳：47症例（6.2%）、41～42歳：73症例（9.7%）、43歳～：44症例（5.8%）であった。

■【方法】

対象の採卵で得られた移植胚全てを用いて出生の有無を調べ、その採卵ごとの出生率及び累積出生率について採卵4回目までを各年齢別に調べ検討した。また、ドロップアウトした症例を全て出生に至らなかったとみなした非楽観的予測、ドロップアウトした症例がその回ごとの出生率と同程度で出生に至ったとみなした楽観的予測の2つを比較検討した。

■【結果】

累積出生率の楽観的及び非楽観的予測の1回目は～29歳：70.1 vs 70.1%、30～34歳：57.8 vs 57.8%、35～37歳：40.7 vs 40.7%、38～39歳：29.9 vs 29.9%、40歳：17.0 vs 17.0%、41～42歳：13.7 vs 13.7%、43歳～：0.0 vs 0.0%。2回目は～29歳：83.2 vs 80.6%、30～34歳：77.3 vs 74.8%、35～37歳：58.9 vs 56.6%、38～39歳：40.4 vs 38.5%、40歳：24.8 vs 23.4%、41～42歳：15.3 vs 15.1%、43歳～：2.4 vs 2.3%。3回目は～29歳：85.1 vs 82.1%、30～34歳：83.5 vs 79.8%、35～37歳：68.1 vs 63.5%、38～39歳：48.8 vs 45.3%、40歳：27.5 vs 25.5%、41～42歳：20.3 vs 19.2%、43歳～：2.4 vs 2.3%。4回目では～29歳：89.6 vs 86.6%、30～34歳：87.2 vs 83.0%、35～37歳：69.8 vs 65.1%、38～39歳：49.9 vs 46.2%、40歳：30.1 vs 27.7%、41～42歳：23.7 vs 21.9%、43歳～：4.9 vs 4.5%となり、年齢とともに出生率に著明な低下がみられた。

■【結語】

年齢が上がるにつれ、出生率は低下（特に38歳以上からの低下が顕著）することを患者に理解してもらう適切な資料と考える。